

ユガテの森から

NO13

発行 NPO法人 西川木楽会 埼玉県飯能市大字飯能291番地

平成30年1月1日

～ユガテの森から

西川木楽会会員のみなさまへ～

代表理事 和泉由起夫

会員皆様方の、お陰をもちまして事業年度の上半期が経過しました。

柳田國男の言葉に「美しい村など初めからあったわけではない。美しく暮らそうという村人がいて、美しい村になるのである。」

山林、森林、里山も同じだと私は思う。

さて昭和30年代までの中山間地には「農業」と「林業」が生活バランスからみてもうまく作用し合っていた。

その後「施行されて来た林業政策」で林業消滅問題の原因はさまざまな変遷をへて、今現在、拡大造林政策から50年が経ち、不良債権化した山々、最小限やらねばならない山林/森林整備は補助金頼り、かろうじて頑張っている森林組合は山の所有者が赤字で行っている施業費と国や自治体から出る補助金のおかげでまかなえている。

(残ったもの) ①国土の半分占める人工林 ②山林所有者の膨大な借金③輸入材(合板、集成材)の市場の一般化 ④自然環境問題(土砂災害や環境破壊)特に飯能地域は土砂災害が一番の心配事

(失ったもの) ①中山間地域の生業であった林業 ②国産材需要

少なくとも木楽会メンバーを始め飯能の関係者は木とか山林とかの概念に興味をもつ人達の間で、カンカンガクガク論議を幾重にも重ねて来たが、これからこれらの「負の遺産」をどのように処理するのか、そして「失ったもの」をどのように復活させるかにかかっていると思う。林業を思うにこの視点は外すわけにはいきませんが、私には林業だけを考えると、とてつもない困難ばかりが目立ちます。じゃあ、もう林業は「アカン」か、という質問が上がりますが、「自伐型林業」なら失ったものが取り戻せるのかなあと思う今日この頃です。

皆さんもご存じのように高知県発信で今、大変話題になっていますが採算と環境保全を両立させる持続的森林経営。西川木楽会は飯能版自伐型と言えらると思う。

木楽会会員の方たちはユガテの森を拠点に肩に力を入れず会員が楽しみながら個々の素晴らしい才能で活動に勤しんでいる。これこそが里山再生のスタイルの真骨頂だと私は思う。

飯能市は中山間地森林率が80%を超える自治体です。

木楽会はこの大きなポテンシャルを持つ山林・里山活用の主政策となり得ると考え「地方創生の鍵」としてのリアルなメディアとして成長させていただければと思います。終わりに今後の喫緊な課題としては青年部会の様な若者の力を継承させてゆく事が大事だと思います。



山には宝がいっぱい（私の山の利用法）③ 枝物 1

内野博司

枝物（えだもの）とは〔生け花で松・梅など木類を総称する語〕（大辞林）である。私は今まで農協の直売所などに出荷してきたので、いくつかについて紹介したい。

松

通常は畑で栽培され、出荷されるが、新年向きの松飾りには山取りの枝でも良い。ほぼ12月に限られる。

かつては、山にはアカマツが多くあったが、近年は、マツノザイセンチュウによって枯死し少なくなっているのが残念である。枝は、1段、2段、3段でも良く、アカマツ以外にクロマツ、ゴヨウマツでも良い。積極的に山に植栽することも考えている。



梅

早咲きのものは、12月から出荷でき、新年向きに有利に販売できる。標準的には長さ80cm程度の枝を5本くらい束にして、数か所しばりコンパクトにする。束にしたら、温室、室内、浴室などに入れて、開花を促進する。蕾に色がつけば人気がある。2月、3月になれば、開花促進の必要はない。

枝折（しおり：束にすること）は比較的難しく、蕾が落ちやすい。品種は、花梅専用品種が良いが、実梅品種でも差支えない。

通常の実取りの管理では徒長枝を切り落とすが、枝物用には、なるべく蕾のびっしりついた枝を採取する。徒長枝は切落とさずに残せば翌年以降に使用できる。



ロウバイ

12月に咲き始める。「満月ロウバイ」の場合飯能では平野部では12月下旬には咲すぎ、満開に近い、その点、気温の低い山間部ではまだ蕾で正月用にはちょうど良い。室内に数日おくだけでも咲き始める。12月には葉が黄葉状態で枝に付いていることもあるので手で除去する。枝折は枝物の中では最も難しく、ちょっと触れただけで蕾が落ちてしまう。飯能は消費地に近いので、枝折を最小限にとどめ、流通させると有利販売できる。梅と同じく、徒長枝は切らずに残し翌年以降に利用する。「栽培は易しく、出荷が難しい」枝物である。



3ヶ月の記録



10月29日 人間万燈まつり



11月4日 広葉樹の森づくり



11月12日 西川材フェア



11月12日 三芳町産業祭



11月26日 ミニコンサート



11月28日 視察受け入れ



12月9日 西川木楽会忘年会



12月23日 ミニ門松づくり

西川木楽会 3 カ月予定表 (2018年1月から4月)

月 日	時 間 帯	行 事 内 容	場 所
1月6日 (土)	11:00から15:00	安全祈願祭&自由討論会	ユガテ
1月20日 (土)	10:00から15:00	間伐体験と西川材クラブ作り	ユガテ
1月27日 (土)	10:00から15:00	定例活動日	ユガテ
2月20日 (火)	19:00から21:00	理事会	飯能ケーブルテレビ
2月24日 (土)	10:00から15:00	定例活動日	ユガテ
3月24日 (土)	10:00から15:00	定例活動日	ユガテ
4月7日 (土) 予定	10:00から15:00	ユガテの春を楽しむ	ユガテ

備考 1. 定例活動日

ユガテ：第4土曜日 任意の製材木工作業：毎週火曜日
真壁と暮らし部会：第3土曜日 理事会は原則偶数月第3火曜日

2. 時間に拘ることなくご都合の良い時間にご参加いただいても結構です

レポート

ダッチオーブンで「鯛の塩釜焼き」に挑戦

小船喜一

我々の活動拠点であるユガテの森にはいろいろ多くの設備があります。林業の仕事をするための道具や製材機をはじめ木材を加工する道具など。それから、燻製窯、ピザ窯、炭焼き窯など。これまで、イベント等のたびにこれらの設備等を使って活動してきました。

会では、昨年ダッチオーブンを購入しました。アウトドアクッキングに是非ほしかったダッチオーブン。焼いたり、煮たり、蒸したりそのほか多彩な料理に使えるのがいい。

今回、初めて「鯛の塩釜焼き」に挑戦してみました。…。

蓋の上に竹炭を置いてダッチオーブンを火にかけ焼くこと1時間。

こんがり狐色に焼けた塩釜を割って鯛が現れ、身をほぐして食べたら美味しいの一言。初めてにしては期待以上でご覧のと通りの出来栄でした。

ダッチオーブン料理は炭火の管理をしさえすれば比較的手間がかからない。ローストビーフなど肉料理、キノコや野菜を使った鍋料理もダッチオーブンを使えば比較的容易にできそうです。

今後、更に野外料理のレパートリーを広げ、新しいレシピに挑戦しましょう。

レシピ

鯛…1尾、塩…1kg、卵白…2個分、
ダッチオーブンに塩をあけて卵白を少しづつ加えながらよく混ぜ、ぎゅっと握ると手の中で固まる状態にする。

なべ底に鯛が乗るように塩を敷く。鯛をのせたら上から残りの塩をかぶせる。

ダッチオーブンを火にかける。60分程度で塩が固まれば出来上がり。塩釜を割って中の鯛を取り出し、身をほぐしながら食べる。

屋台完成

9月半ばから取り掛かって10月の万燈祭りに間に合わせたかったが、雨にたたられ間に合わず、ようやく12月9日の忘年会に9割程度の出来上がり。年明けには細部の調整を終えて完成する見通し。組み立て式なので移動や設置も簡単。多目的に使ってほしい。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

木楽会では、昨年山の日に、「ユガテ木工まつり」を開催しました。今年は、屋台を加え、「地域のまつり」として盛り上げたいものです。

会員の皆様にとりまして、新しい年がより良き年でありますように心から御祈念いたします。